

ぱれっと

女性の活躍で社会が変わる！

今、仕事でも地域でも、さまざまな分野で女性がイキイキと活躍することが求められています。女性が社会で活躍するためには、女性だけでなく男性も含めて働き方を考える必要があります。今号では、仕事と家庭を両立しながら夢に向かってまい進する女性の声を聴くとともに、データを交えて女性を取り巻く社会の現状を読み解きます。



やりがいを持って働き続けたい

夢を追い、救急隊員に

自分の進路を決めたのは中学3年生のとき。妹が怪我をしたことがきっかけでした。現場に駆けつけた救急隊員の優しい声掛けや素早い処置を見て「格好良い！」と思いました。その後、救急隊員についていろいろ調べ、女性も現場で活躍できることを知りました。どうしても救急隊

■インタビュー

滝口麻里さん（東京消防庁・八王子消防署・勤続7年）

員になる夢をかなえたかったので、大学卒業後、両親にお願いして1年間の就職浪人をしました。その間、アルバイトをしながら勉強し、東京消防庁に入庁することができました。

女性の救急隊員でよかったこと

救急車に乗れるようになって5年。今は落ち着いて仕事ができるようになりましたが、最初は大変でした。現場は今まで勉強してきたことと違うことが多くて戸惑いました。思うように動けず、どうしたらよいかわからなくなったりもありましたが、先輩方から経験を聞くなどして自分なりに改善していきました。仕事をしていてやりがいを感じるのは、女性が救急車に乗っていることで安心してもらえる時です。安心された姿を見ることが、女性が乗っていることが「次も頑張ろう！」というモチベーションにつながります。

両立のコツは「できるときにできる人がする」

結婚して5年、夫も東京消防庁に勤務しており、2人とも24時間体制で勤務しています。お



互い、家事も料理も、身の回りのことは全部一人でできます。私たちの場合、家事分担をキツチり分けると、もめ事の原因になりそうなので、「できるときにできる人がしよう」というスタンスにしています。オンとオフのバランスを取ってメリハリをつけ、仕事と家庭を両立できるようにになりたいと思っています。

目標に向かって道を切り開きたい

今の目標は、経験を積み、全体を統括する救急係長になること！消防庁には女性の救急係長もいます。そういう方の存在は、自分も頑張ろうという励みになります。時間はかかっても目標に向かって努力し続けていけば道は切り開けていくと思います。結婚や出産を機に仕事を辞めざるを得ない女性達も大勢いる中で、恵まれた職場なのかもしれません。子どもを産んでも救急車に乗り続けて、社会に貢献していきたいと思っています。

日本は女性が働きやすい社会？

社会の多様化やグローバル化に対応するためには、人材の多様性が必要です。豊かで活力のある社会を実現するために、今、女性の力が求められています。ここからは、各国との比較や日本の現状を、データを交えて見ていきます。

データ 1 ジェンダー・ギャップ指数

順位	国	順位	国
1	アイスランド	28	アメリカ
2	ノルウェー	30	カナダ
3	フィンランド	41	イタリア
11	ドイツ	91	中国
15	フランス	101	日本
18	イギリス	115	韓国

出典：「The Global Gender Gap Report」(世界経済フォーラム) 2015年

平成27年9月4日、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(略称「女性活躍推進法」)が施行されるなど、女性の活躍が後押しされています。しかし、現状は、就業していても出産・育児・介護等を理由に仕事を辞めざるを得ない女性や、就業を希望しているにもかかわらず就業できない女性が大勢います。その背景には、男性が長時間働かなければならない状況におかれています。性別役割分担意識など、さまざまな問題があり、女性が仕事と家庭を両立させることが難しい現状があります。女性が自らの意思で仕事をするのができ、個性と能力を発揮することができる社会を目指していかなければなりません。

女性の就業を取り巻く現状

データ 2 25～54歳の女性の就業率

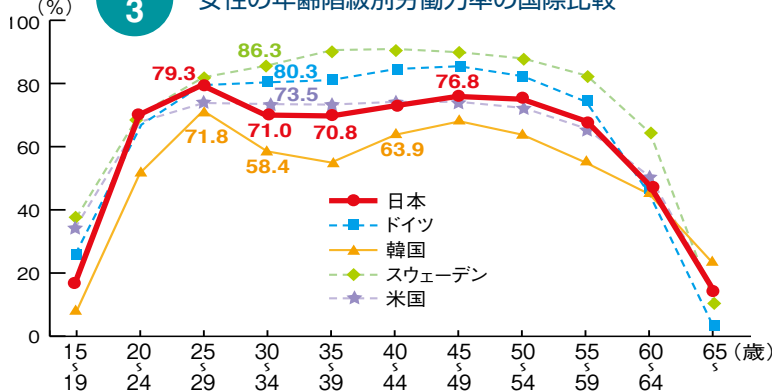
順位	国	就業率
1	スウェーデン	82.8%
2	アイスランド	82.1%
3	スイス	81.8%
24	日本	71.8%
OECD加盟国平均		66.9%

出典：「雇用アウトlook」(経済協力開発機構) 2015年

経済、教育、保健、政治の各分野で女性がどれくらい活躍しているかを数値化した「ジェンダー・ギャップ指数」。世界経済フォーラムが毎年発表している2015年のデータにおいて、日本は145か国中101位(データ1)。政治分野が104位、経済分野が106位で、G7主要7か国でも最低となっており、女性の活躍が進んでいないとは言い難い状況です。また、OECD加盟国における女性の就業率をしてみると、25～54歳の女性の就業率は71.8%で34か国中24位と、実際にはなお低水準であることが浮き彫りになっています(データ2)。

世界と比べて日本は今…

データ 3 女性の年齢階級別労働力率の国際比較



出典：「ひとりひとりが幸せな社会のために」(内閣府・男女共同参画推進連携会議) 2015年

女性の年齢階級別労働力率をグラフで表したとき、30代で就業率が落ち込み、40代以降で回復する傾向を「M字カーブ」と呼びます。日本の「M字カーブ」の底は年々浅くなってきてはいるものの、依然としてへこみが見られます。日本では、いまだに多くの女性が出産を機に仕事を辞めざるを得ない現状が見取れます。これは、男女共同参画が進んでいる欧米諸国では見られない現象です(データ3)。

解消されないM字カーブ

「男女が共に生きるまち八王子プラン(第3次)」評価報告書を作成

市は「男女が共に生きるまち八王子プラン(第3次)」を基に、男女共同参画社会の実現をめざして施策を推進しています。このほど、平成26年度の進行状況を評価した「男女が共に生きるまち八王子プラン(第3次)ー平成26年度評価報告書ー」を作成しました。

報告書は、市役所1階市政資料室、男女共同参画センター、各事務所・市民センター・図書館、市のホームページなどでご覧になれます。

市では、男女共同参画施策の推進について、皆様のご意見を随時受け付けています。ご意見は直接、電話、ファックス、またはEメールで男女共同参画センターへ。

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？

民間団体によるDV相談窓口

団体名	形式・費用	日時	連絡先
DVホットライン八王子	電話相談・無料(女性専用)	月曜日 午前9時～正午	☎ 042-626-8258
全国共通DVホットライン	電話相談・無料(女性専用)	月～土曜日 午前10時～午後3時	☎ 0120-956-080
いっぽの会	女性同士の語り合い・1回300円	第1・第3金曜日 午後1時半～午後3時半	☎ 090-6338-4391 090-7408-1372
れんこんの会	女性同士の語り合い・無料	第2土曜日 午後2時～4時 第4木曜日 午前10時～正午	☎ 080-5039-9374

今なぜ女性の活躍が必要なのか



山田昌弘さん

社会学者。中央大学文学部教授。家族社会学、感情社会学、ジェンダー論を専門とし、『パラサイト・シングルの時代』（1999年）、共著『「婚活」時代』（2008年）、『女性活躍後進国ニッポン』（2015年）など、著書多数。

女性の活躍を妨げる雇用慣行

日本は「女性活躍後進国」です。その原因として考えられるのが、男性が主に仕事、女性が主に家事ということ前提につくられた雇用慣行です。これは、家事・育児責任を担わない人しか、日本の企業内で活躍することが難しいことを意味しています。「男は仕事、女は家事」という性別役割分業意識が根強く残る中で、家事や育児を担いつつ、男性と同じように競争する、そんな不平等な条件に同意する女性がどれくらいいるのでしょうか？長時間労働や新卒一括採用、再就職の難しさなどに代表される日本の雇用慣行が、そのまま女性の社会進出の遅れにつながっていると言えます。

社会で必要とされる女性の力

この独特な雇用慣行は高度経済成長期にできあがったものの、当時はそれが効率的でしたが、現在は経済が低迷し、収入が伸び悩む中で、子どもを産み育て、豊かな生活を築くためには、女性の収入も必要となってきました。また、今は時代が大きく変化し、多様な新しいサービスを生み出すためには、男性ばかりでなく女性の視点も必要とされています。性別役割分業を前提にした制度、慣行、意識は、男女双方に「生きにくさ」を作り出しています。仕事を続けたいと望む女性が働き続けられる環境を整備し、様々な分野で女性が活躍することは、男女共に生きやすい社会につながるのです。

男女共同参画センターの紹介

男女共同参画センターでは、各種講座の開催、女性のための相談、学習支援などのための無料託児サービス（ほっとタイムサービス）などを行っています。

◆開館時間

月～土曜日／9時～19時

日曜日、祝・休日／9時～17時

◆休館日

年末年始（12月29日～1月3日）、毎月第1火曜日（館内点検日）

☆ほっとタイムサービス

学習支援・求職支援のための無料託児サービスです。

◆利用できる方

満1歳～6歳までの就学前のお子さんの保護者で

○クリエイイトホール内の生涯学習センター図書館・生涯学習センター・消費生活センター・男女共同参画センターを利用する方

○八王子しごと情報館を利用する方

◆利用時間

日・月・水・金・土曜日／9時～12時

火・木曜日／13時～17時

◆利用方法

男女共同参画センターで登録した後、利用日の2日前までに電話または直接窓口で予約をしてください。

電話相談 (年末年始を除く)	月～土曜日	午前9時～午後7時
	日曜日、祝・休日	午前9時～午後5時
相談 (要予約)	木曜日	午後1時～午後4時
カウンセリング (要予約)	水・土曜日	午前9時～正午
	第4月曜日	午後1時～午後4時
	第2・3金曜日	午後4時～午後7時
弁護士 (要予約)	第4土曜日	午後2時～午後5時



相談
専用電話
☎ 042-648-2234

☆女性のための相談

夫婦・家族間の不和・めめ事の悩み、生き方や人間関係、交際相手との悩みなど、女性の人権に関することや法的な相談に、専門の女性相談員が対応します。

第25回 女と男のいきいきフォーラム八王子

自分を大切に生きる生き方、働き方



平成28年2月27日(土)

会場：八王子市クリエイトホール (八王子市東町 5-6)

入場
無料

託児
あり

■ 1歳から就学前のお子さん
■ 要予約(午前/午後) 各12名まで

講演会 手話通訳あり

未来のワーク・ライフ・バランスを考える ～専業主夫として宇宙飛行士を支えて～

講師 / 山崎大地 (有限会社国際宇宙サービス 代表取締役、民間宇宙飛行士)

時間 / 14:00～16:00 会場 / 5階ホール(定員170名) どなたでも(市内在住・在勤・在学の方を優先)

1972年神奈川県鎌倉市生まれ。1997年東海大学工学部航空宇宙学科卒業。国際宇宙ステーション運用管制官として「きぼう」の開発および運用準備に従事。2005年に有限会社国際宇宙サービス社設立。2006年宇宙飛行事業を開始。2010年、専業主夫として日本初のママさん宇宙飛行士誕生に貢献。現在は、自らの宇宙飛行の準備を行う傍ら、日本とアメリカを中心に宇宙旅行時代に向けた新たな民間宇宙ビジネスの創出や執筆などを行いつつ、全国各地で男女共同参画関連の講演を行うなど、夢の実現などについて自身の経験を広く伝える活動を行っている。著書に「宇宙主夫日記」(小学館)、「宇宙家族ヤマザキ」(祥伝社)がある。



分科会

『就活』を通して『将来の自分』を考える ～よりよい選択ができるように～

講師 / 山本三千代 (キャリアカウンセラー)

時間 / 10:00～12:00

会場 / 10階 第2学習室 (定員50名)

どなたでも

健康は足裏から

～身体のゆがみチェックと正しいウォーキング～

講師 / 森尻 強 (東京家政大学教授)

時間 / 10:00～12:00

会場 / 6階 レクリエーション室 (定員20名)

女性

団体企画

パパもママも知っておきたい、働くときと暮らすときのマイナンバー

講師 / 櫻井三樹子 (特定社会保険労務士) 太矢香苗 (ファイナンシャルプランナー)

時間 / 10:00～12:00

会場 / 11階 第7学習室 (定員25名)

企画 / 多摩らいふサポート

子育て中の保護者

スティックバルーンロケット パパと作って飛ばそう!!

講師 / レクボラ No.1 の会員

時間 / 14:00～16:00

会場 / 11階 第7学習室 (定員12組)

企画 / レクボラ No.1

4歳～小学6年生のお子さんとその父親(または両親)

良い人間関係を作るための自己理解ワーク ～DV・モラハラに遭わないヒント!～

講師 / 酒井かな子 (社会福祉士)

時間 / 10:00～12:00

会場 / 10階 第5学習室 (定員20名)

企画 / マザーリーフ

どなたでも

シンポジウム『戦後70年、女性たちは今』

講師 / 植野妙実子 (中央大学教授)

時間 / 16:30～18:30

会場 / 10階 第2学習室 (定員50名)

企画 / 八王子手をつなぐ女性の会

どなたでも

企画展示 申し込み不要

会場 / 1階 展示スペース

女たちは黙っていない!

企画 / 八王子手をつなぐ女性の会

『聞き書きで綴る 八王子の女性史』を刊行して

企画 / 八王子女性史サークル

お申し込み・お問い合わせは

男女共同参画センターまで

TEL 042-648-2230 FAX 042-644-3910

1月4日(月)から申し込み先着順で受付開始!

講演会、分科会、団体企画、託児はお申し込みが必要です

女性の参画状況推移

	附属機関等数	うち女性がいる附属機関等	委員等総数(人)	うち女性数(人)	女性の参画率
24年度	112	88	1,947	547	28.1%
25年度	128	102	2,130	647	30.4%
26年度	131	106	2,070	691	33.4%

八王子市の附属機関等への女性の参画状況

附属機関等とは、市の政策や企画の立案過程において、専門的な知識や市民の皆さんの幅広いご意見を反映させることを目的にした機関・会議です。

26年度の附属機関等への女性の参画率は33.4%で、前年度と比べて微増していますが、いまだに女性が一人もいないところもあります。

女性の声を市政に活かすため、附属機関等への女性の登用について積極的に働きかけを行うなど、女性参画の推進に向けて取り組んでいきます。